

# JASRI ご挨拶

財団法人 高輝度光科学研究センター（JASRI）

理事長 白川 哲久

第10回サンビーム研究発表会報告書刊行にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

目下、SPring-8では53本のビームラインが稼動中で、さらに4本が計画・建設中でございます。これらを合わせますと、ビームライン設置可能なポート62ヶ所の内、9割を超える57本が稼動する状況となります。SPring-8ではサンビームを始めとする産業界の利用が海外の放射光施設に比較して活発であることはご案内の通りでございます。平素からSPring-8の能力を存分にご活用頂いているサンビーム共同体に参画されている企業の皆様に改めて厚く御礼申し上げます。

さて、2009年11月に行われました行政刷新会議の事業仕分けで、「SPring-8の予算は2/3から1/2の縮減」との評価を受けたことは、まさに衝撃的な出来事として記憶に新しいところでございます。

この危機的とも言える状況の中で、サンビーム共同体を始めとするSPring-8利用推進協議会の会員企業の方々やSPring-8利用者懇談会、日本放射光学会などの産業界・学術界の多数のユーザーの方々から大きなヴォイスを挙げて頂きましたことに対し、改めて感謝申し上げます。既にご案内のとおり、幸いにも政策当局の御理解も得られ、前年度とほぼ同程度の予算が認められ、これによりましてSPring-8は引き続き所要の運転時間を確保できることになりました。

一方で、この事業仕分けは我々に大きな課題を提起いたしました。

第一は、社会や一般の方々のSPring-8に対する理解の促進の重要性でございます。第二は、さらなる利用成果の創出及び成果の公開の必要性であります。

この二点に関しまして、施設者側では様々な観点から見直し、あるいは検討を行って参りました。

第一点目の「社会や一般の方々のSPring-8に対する理解の促進」に関しましては、SPring-8で産み出された研究成果を始め、社会におけるSPring-8の役割等を一般の方々にご理解いただき、社会や一般の方々に支持されるSPring-8となるための情報発信を強めております。サンビーム研究発表会を含むSPring-8合同コンファレンスもその一環でございますし、2010年11月に奈良で文化財研究分野におけるSPring-8の利用をテーマに、芸術や考古学、文化財など一般の方々にも親しみやすい分野での講演会（SPring-8特別企画「夢の光が照らす文化と歴史」）を企画致しましたのも、私どもの具体的な取組みの一例でございます。

第二点目の「さらなる利用成果の創出及び成果の公開」に関しましては、JASRIの選定委員会におきまして「成果公開の促進」に関する提言が取り纏められたところでございます。

この提言は、既にホームページに掲載するとともにメールにて利用者の方々にご案内を差し上げておりますのでご存知の方も多いと思いますが、成果非専有課題の利用者の方々に本来公開すべき成果物の公開を明確に義務付けることによってSPring-8における成果発表の促進を図るものです。JASRIでは提言を受けて平成23年度後期（2011B期）から新制度を開始すべく準備を進めております。

サンビーム共同体への参加企業の皆様にも新制度の趣旨をよくご理解頂き、更なるSPring-8の利活用と成果の発信に一層のご協力をお願いしたいと思います。



白川理事長